

WBF 千里シリーズ
2013

昨年覇者を撃破し 杉原 5 度目 V

文：しらきけ んたろ

平成へ改号した年よりその歴史を積み重ねてきた WBF 千里シリーズも今年で 25 年目。四半世紀にわたり幾多の名勝負を繰り広げてきたその歴史に今年名を刻むのは誰か？

3 月からの半年にわたるレギュラーシーズンを勝ち抜き、挑戦者を迎え撃つ資格を得たのは、昨年のシリーズ覇者でもある馬場毅選手。今なお成長を続けるベテランボウラーが、現行ルール初の連覇という偉業を達成するのか？対するは、200 UP スコアでプレーオフを勝ち上がった杉原陽一選手。過去幾多のタイトルを総なめにしてきた強豪だ。

既に新聖地として定着して久しいボウル曽根（豊中市）を舞台に、シーズン 1 位・2 位の頂上決戦となった千里シリーズ。

それでは超短期決戦のプレーオフ、そしてファイナルステージの様子を見て行こう。

◆プレーオフ◆

決勝で待つ年間＆ディフェンディングチャンピオン馬場毅選手への挑戦権をかけた、2 ゲームハイスコア勝負のプレーオフから見てみよう。プレーオフに進出できるのは、シーズン年間ポイントで 2 位・3 位の選手、年間 7 回行われる各ラウンドで 1 位獲得した選手、そしてポイント上位を逃した選手の中から条件を満たせば選出されるワイルドカード枠の選手だ。まず年間ポイント 2 位、3 位には、WBF を牽引する両輪と言ってもいい、杉原陽一選手、松本誠司選手の実力者 2 名が、そして次世代ホープ、チャンピオンの子息馬場春毅選手も同点 3 位で名を連ねた。杉原選手はラウンド優勝こそ 1 回と少なかったものの、ストライク率・スペア率・アベレージなど各賞を総ざらい。今一番脂がのっている選手と言えよう。松本選手は最終第 7 戦にまでプレーオフ出場がもつれる展開から奇跡のラウンド 1 位で年間 3 位まで上昇。その勝負強さはやはり折紙付だ。成長著しい馬場春樹選手には千里シリーズ史上初の父子鷹対決、さらに最年少チャンピオンの座に注目が集まる。また各ラウンド 1 位の出場資格者の中から、白木建太郎選手が東京からのロケット参戦。そしてワイルドカード枠として島裕二選手、藤原聡選手が出場した。総勢 6 名によるバトルロイヤルを勝ち上がるのは果たして・・・

◆プレーオフ第1ゲーム◆

ボウル曽根の1番・2番レーンで始まったプレーオフだが、開始早々1番レーンが故障・使用不能になるという想定外のアクシデントが発生。隣のレーンが空くまで30分程の放置プレーに、各選手はモチベーション維持に苦しんだようだ。

そんな中でも、やはりこの二人、場数を踏んでいる杉原・松本の両選手は、レーンコンディションを確認しつつのスコアメイク。結果、松本選手が2ストライク/6スペアで179点（素点175点）をマークし暫定トップに。

◆プレーオフ第2ゲーム◆

第1ゲームで集中力を欠いたプレーを見せ、チャンピオンである父に喝を入れられた馬場春毅選手がスタートダッシュに成功。6フレームまでフルマーク（ダブル含む）を見せ、他の選手を圧倒する展開に。ハンデを活かした逃げ切りを目論んだ島選手・藤原選手も、その先を行かれては手も足も出ず。東京からのロケット参戦を見せた白木選手も、移動の疲れからか見せ場無く散って行った。

そんな中でも、やはりこの二人、場数を踏んでいる杉原・松本の両選手は、試合の流れを読みながら繋ぎのボウリングを展開。馬場春樹選手が後半バテると踏んだ読みは見事の中。土壇場の9フレームで馬場選手にほぼ並ぶという末脚を見せた。運命の10フレーム1投目、馬場選手がヘッドピンを外すまさかの失投、松本選手がこれまた痛恨のスプリット、それに対し杉原選手は9フレームからのダブルをマークし、デッドヒートを差しきった。

	選手名	1F	2F	3F	4F	5F	6F	7F	8F	9F	10F	得点		
第1 ゲーム	馬場春毅	6	-	G 4	4 /	7 2	7 -	G 9	9 -	G 9	6 /	6 -	92 >> 154	
	島 裕二	1	6	6 3	6 2	4 /	9 /	6 3	7 2	5 4	3 6	3 /	6	111 >> 154
	藤原 聡	6	3	s8 /	*	7 1	*	s8 /	9 -	6 1	9 -	9 /	5	134 >> 167
	松本誠司	9	-	8 /	8 /	6 /	8 /	8 /	9 -	8 /	*	* 9	-	175 >> 179
	杉原陽一	8	/	*	9 /	9 -	8 /	s7 1	9 -	*	8 /	7 /	s6	155 >> 157
	白木建太郎	7	2	9 -	*	8 /	s8 1	s7 1	9 /	s7 1	*	9 -		126 >> 128
第2 ゲーム	馬場春毅	7	/	*	*	1 /	9 /	6 /	8 -	5 -	4 5	3 3	142 >> 204	
	島 裕二	8	-	9 /	3 4	9 -	6 -	7 2	8 /	9 /	3 /	* 7	-	121 >> 164
	藤原 聡	6	-	5 /	9 /	9 /	8 -	7 /	9 /	7 2	s7 1	7 /	*	143 >> 176
	松本誠司	9	/	9 /	*	*	7 /	9 /	*	9 /	*	s8 1		193 >> 197
	杉原陽一	*		8 1	8 /	8 /	*	*	*	7 /	*	* 9	/	212 >> 214 ★
	白木建太郎	8	1	9 /	9 -	*	9 /	s8 1	9 -	8 /	8 1	7 1		128 >> 130

★杉原選手がファイナルステージ進出

次ページより、いよいよファイナルステージ↓



◆ファイナルステージ第1戦◆

杉原爆発！プレーオフからの連続 200 UP で先

昨年、念願の千里シリーズ初制覇を達成し、勢いそのままに今シーズンもポイント優勝を決めたディフェンディングチャンピオン馬場毅選手へ、過去4度の賜杯を手にしてきた最強チャレンジャー杉原陽一選手が立ち向かうファイナルステージ。

どちらもツボにハマったときはストライク量産が期待できるだけに、WBF 屈指のハイスコアマッチが予想されたが、第1戦はプレーオフを勝ち抜いてきた杉原選手に軍配が上がった。レーンコンディションを読み切ったかのように4フレからの5連続ストライクは圧巻。一方の馬場選手は2・3・4フレを続けてオープンとして調整登板モードに。一方的な展開で杉原選手が1勝目を上げた。

選手名	1F	2F	3F	4F	5F	6F	7F	8F	9F	10F	
馬場 毅 (シーズン優勝)											
	* 19	9 28	7 37	2 45	s7 1 60	5 2 67	7 86	/ 105	/ 125	* 7 144	2 17
ハンデ込み 得点差⇒	↑25	↑14	↑4	↑3	↓12	↓35	↓46	↓57	↓66	↓67	HDCP 得点
杉原陽一 (シーズン2位)											
	s6 3 9	* 29	9 / 48	9 - 57	* 87	* 117	* 147	* 177	* 206	* 9 226	/ 2
	9	29	48	57	87	117	147	177	206	226	228

◆ファイナルステージ第2戦◆

まさに互角の戦い！王者馬場、粘り勝ちで1勝

レーンコンディションをつかみ始めたチャンピオンと、プレーオフからの連戦が気になる挑戦者。第2ゲームは初戦と打って変わって、両者ともスペアボウリングで互角の戦いを展開。ハンデ差を活かし馬場選手が優勢に試合を運んだかに見えたが、先にミスをしたのはその馬場選手。7フレを痛恨のオープンとし、一気に差を縮められた。ここで一気に勝負を決め賜杯へ王手をかけたい杉原選手だったが、10フレでまさかのスペアミス。馬場選手が粘り勝ちで1勝1敗のタイに戻した。

選手名	1F	2F	3F	4F	5F	6F	7F	8F	9F	10F	
馬場 毅 (シーズン優勝)											
	9 /	9 /	s8 1	3 /	9 /	*	4 4	9 /	*	9 /	17
	19	36	44	65	85	103	111	131	151	170	187
ハンデ込み 得点差⇒	↑14	↑15	↑15	↑17	↑18	↑16	↑4	↑4	↑5	↑15	HDCP 得点
○● 杉原陽一 (シーズン2位)											
	*	9 /	6 2	9 /	9 /	9 /	*	7 /	*	6 3	2
	20	36	44	63	82	102	122	142	161	170	172

杉原山 再噴火で王手！馬場選手なす術無しか?!

◆ファイナルステージ第3戦◆

この男の辞書に「疲れ」という言葉は無いのか……。どちらが先に王手をかけるか注目の第3ゲームは、先のゲームに引き続き中盤まで互角の様相。しかし解説席からは、確実にヘッドピンを捉えている挑戦者に対し、なかなかコントロールが定まらないチャンピオンが苦しいとの声。その差が現れたのは終盤7フレ。杉原選手がダブルを決める一方、馬場選手が7・8と連続オープンで勝負あり。6ストライク4スペアで本日3度目となる200UPを叩き出した杉原選手が王手をかけた。

選手名	1F	2F	3F	4F	5F	6F	7F	8F	9F	10F	
馬場 毅 (シーズン優勝)											
	9 /	*	7 /	8 1	6 /	*	6 1	6 2	9 -	* s7 2	17
	20	40	58	67	87	104	111	119	128	147	164
ハンデ込み 得点差⇒	↑15	↑16	↑25	↑14	↑14	↑2	↓11	↓23	↓41	↓42	HDCP 得点
○●○ 杉原陽一 (シーズン2位)											
	9 /	*	9 -	*	9 /	*	*	9 /	*	* 7 /	2
	20	39	48	68	88	117	137	157	184	204	206

選手名	1F	2F	3F	4F	5F	6F	7F	8F	9F	10F		
馬場 毅 (シーズン優勝)												
●○○●●	s7 1	9 -	s8 -	7 /	*	s7 2	7 /	9 /	8 /	8 /	9	17
	8	17	25	45	64	73	92	110	128	147		164
ハンデ込み 得点差⇒	↑ 3	↑ 2										
			↓ 20	↓ 20	↓ 29	↓ 40	↓ 40	↓ 31	↓ 20	↓ 19		HDCP 得点
	* 8 /	* 8 /	* 8 /	* 8 /	* 8 /	* 8 /	* 8 /	* 8 /	* 8 /	* 8 /		2
	20	30	60	80	108	128	147	156	163	181		183
杉原陽一 (シーズン2位)												



激闘を終えて…

杉原 3 (○●○●○) 2 馬場

杉原陽一 選手

まさか第5戦までもつれるとは思っていませんでしたが、なんとか勝ちることができました。4年ぶりにこのトロフィーを持つことができて嬉しいっす。え？5度目のVですか？それよりも次はパーフェクト出しちゃおうかなあ、なんて考えてます。

馬場毅 選手

今日は杉原くんに負けた、というよりも自分自身に負けたという感じ。息子共々出直しです。来年こそは千里シリーズでの父子鷹対決を実現してみせるよ。さあ息子よ、今日から早速特訓だ！